【講義：ディベートとは？】

①ディベートがどういった時に必要なのか、具体例を挙げます。

「名越幸生（東北学院中高教諭）を日本の首相にすべきである。なぜならば、日本が良くなるから…」と言われたら、どう考えますか？

① 「じゃ、やらせてみたら？」 ← 「実験＆検証」による真実の追求！ （主として“科学”）

② 「本当にそうなるのか検討しよう！」←「情報の収集と吟味」による真実性の追求（議論のシミュレーション）

「おいそれ」と、実際に試すことができませんよね。そこでディベートの登場です。つまりディベートは、議論という “シミュレーション”なのです。ですから、どんどんやりましょう(^_^)/

★ ディベートの定義 ★

(1) 一つの論題に対して

(2) 肯定側・否定側に分かれ

(3) 一定のルールに従って議論し

(4) 最後に、審判によって勝敗が下されるゲームの形式です。

(3)に関して：現実の世界では、強い立場の人の意見が通り、弱い立場の人は発言すらしにくい、ということがままあります。しかしディベートは、肯定側・否定側の双方に、同じだけスピーチの時間が与えられています。つまりルールにより、発言できることが保障されているのです。

(4)に関して：ディベートは、「相手を言い負かし、説き伏せ、相手が何も言えなくなると勝ち」と考えられがちですが、全くの誤解です。ディベートは、ジャッジという第三者を納得させた方が勝ちです。

②スピーチの構造

ディベートでのスピーチを、３つの観点で聞いて下さい。

１．本当かどうか？ ２．すごいかどうか？ ３．プランが必要かどうか？

肯定側は「良いこと（メリット）があるからやろう」と言います。否定側は「悪いこと（デメリット）が起きるから、やめておこう」といいます。

ところで、日本の借金（＝国債の累積残高）をご存じですか→（ ）円

これについて、以下の２つは違います。どこが違うのでしょう？

メリット例１：赤字がなくなる

メリット例２：赤字が減る

…分かりましたか(^_^)？

メリット例１は、「発生過程が低いが、重要性はものすごい」なメリット

メリット例２は、「発生過程は高いが、重要性は？？？」なメリットです。（←注：１円でも減れば発生）

【演習 判定してみる】

先程の例に従うと「本当に（確実に）起こって、しかもすごい（重要／深刻）主張」な主張が“大きな主張”です。そこで、肯定側と否定側の双方の主張に公平に耳を傾けて、“大きな主張”の側を勝ちにしてください。

☆★☆★☆★